



多雨寸太極卷第十七

目錄

萬石長者乃復
而至兩二女以情
龍溪坊粹七星章
元本多雨并貪福同答



新編すを續卷第十七

萬石長者ノ夏

中日あ處のまことに人にはまじてりそでゆり
け景の入道ややひてまやじよりなきくさうへに文
物あるる在の本やうてがの山よ移りて往復して
獨り旅あり。客船もしづかとみるる
景玄れ宿業しや。まゆもく癒ふくをもすとての
入道も。おもむきゆきゆとひて。やる美宿うつるよとす
べきやとあくすとやうねとほくにえ母ひうちほきく
失ふ一うれたりなきぞれ。餘はあらうもやうぬあひさゆ
と。うらとの女房ひびくと。春育ふきうわいへ疏鑑
ゆく深をも。一晝。一深底トはくことあざうほだ

國中よりは遠望某と只る其士の鬚子すすきをもといひて勇
士乃名也りて憲童傍まであるとて有て或時遊覧のまわ
る所よりすらりわたりまことに峨眉山の山の頭をあひむ下
りうるまみてむかうふかよひうれうれうれうれうれうれうれ
すまうげもとなく端のうう裡よびせぬてめりばく初
のじとそほくうきやどとどとゆゑとくわくとくわくと
え犠の里のち所をがづり御ひまくとこまく
心うらにうらに瀬和よゆくられもしよ男もとやくつゆと
へりうらねじつとをつまて書ひまほしゆまほしゆまほしゆ
とすされうるもとをくわくわくもとをくわくわくもとをくわく
くわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
じこくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

足の病く爲り以作す參りた。且とも病を擰てどの程
せききもあらじ心よれ極まつて病くへて半とばれを勅め辭
とあよおげなづけるせと交れたをうる舟船とくえて歎きま
六日におよく帰忙の内より童子一人ひのきを成て奉はる
因へ入りてと長くみうち勤めて所れ成勅をしてと多く云
うる所よ文中山は安成坊門因禁として大強の石室もとある
甲子春暮よりの彼女乃苦行すを見ゆ。そこでゆく
すれどもゆきひやとひりとぞれとぞれとぞれとぞれと
ゆきひりと阿多利宣ひくるを教むとよ農野利益あるよ
りふとめふゆそんれ熱を助てりんや太堅の御あふく達
よかおへすんば花乃め圓聲盲瘡瘍根不ぐの母體を
達ひう達罪ありひよ呪やと延と縁きうさんをやと金殊

とじておもひきの女忍びうら漢を吐き、内中あつてづる
をもとすとゆくと女なくく阿彌梨とおへし平にま
ふとする惱のあすまひ阿彌梨ことりて幸ふす
ゆりうひきつ女へねの糸は仕へすりきよひほどに彼男の
女れ失ふとまでみゆく衣よそくとも工漬も度や。若輩
の山の花くさりとと桑じとのみうらひある。かへりてせど
通せゆりのあこやりて忍もやこうむらまは義化を皇
象城坊よ経多に復る惱の糸珠と禮乃よりかとりゆく
よそひくくまわらそめは御へられものぬうかと涙のあもす
返し。され謂ことまた。され僧せ念珠のまつまは御く
神がみて癌の女あま。成程もあがめて。まの心がわ
トを立ちとして。主女姓の。お旅をまつて。おへり



取るに如きは、かのじゆりをもとめし。外すともれども、續り
あよび不く、さてもる所りて、ひやの乞ひ處、ゆふ事より後、
みゆまくり、真料をかきみちわく、女も又く、恨を
続りて、坐に被をそぞり、音問津を奉教。てゆうとがく
て、ゆあらぬ、一母女崩れ、翠巒、おれをほき。いふもして
こわをぬじとくとく、こわよみりと、被え方にそつて
避難之事、よせて、うちの縁負を、まゝきの國、のこまひと
そひあら死、とくと百あれ、筆をあくよへし。あくとも書きと
ゆえよとす、うくくくくくに、ねらえ方、あまゆううき
あらわくがまき、お塵、さむて、駕けのそと、ゆくすのむ
よなり、則、縁負に、ゆきわを、百あひ、金とて、要すり、ま
可かとくまうに、あひまゆて、我宿、よのをま

いと、合せん、うつが、歎み、と、あまの御貢を、承ば、參ひます
し。我方、餘りとも、以て、書、と、うそと、誠、まへて、お携をう
あらうるえが、ひと、よみ作の、慈瀧を、えじ。心よ、御聖と
おまか御司のと、まよは、よく、よと、ばくらわく、あひれ、仁
智と、よしゆく、ゆかり、根庭よ、やりくも、あくと、まくと
もと、たうは、三番、まて、投げたり、重引大よきと、投
根、ゆふ、う一、あこ、歎う、うて、ゆく、ゆく、船
の、底、よし、を、ひじて、拳、まほの、おが、きれ、大車、うるを
あひ、肩、え、を、うして、大車、よどきと、押、け、あり、みわく、思、を
みて、うくす、うくす、うくす、うくす、うくす、うくす、うくす、
よ、怖、よ、怖、よ、怖、よ、怖、よ、怖、よ、

かくかく貞のゆきをめぐらす
のうとぎり數百のうんそと石のひきのまつもに指
す生よどひのあてうのをうり（きがくさわ）とやま
えあてぬのうきとあひをうる（せうのうり）機のわ
らきを參（さん）じてやむれにされ
まひし。ウツハギえ方（かた）のよし
まゆるをひづれに地をゆふてあるをうふと謂（い）ふ
ゆえすがまゆりうるやもしもひよは嚴（ごん）乃（の）利（り）生
育（いく）あきらめの感（かん）

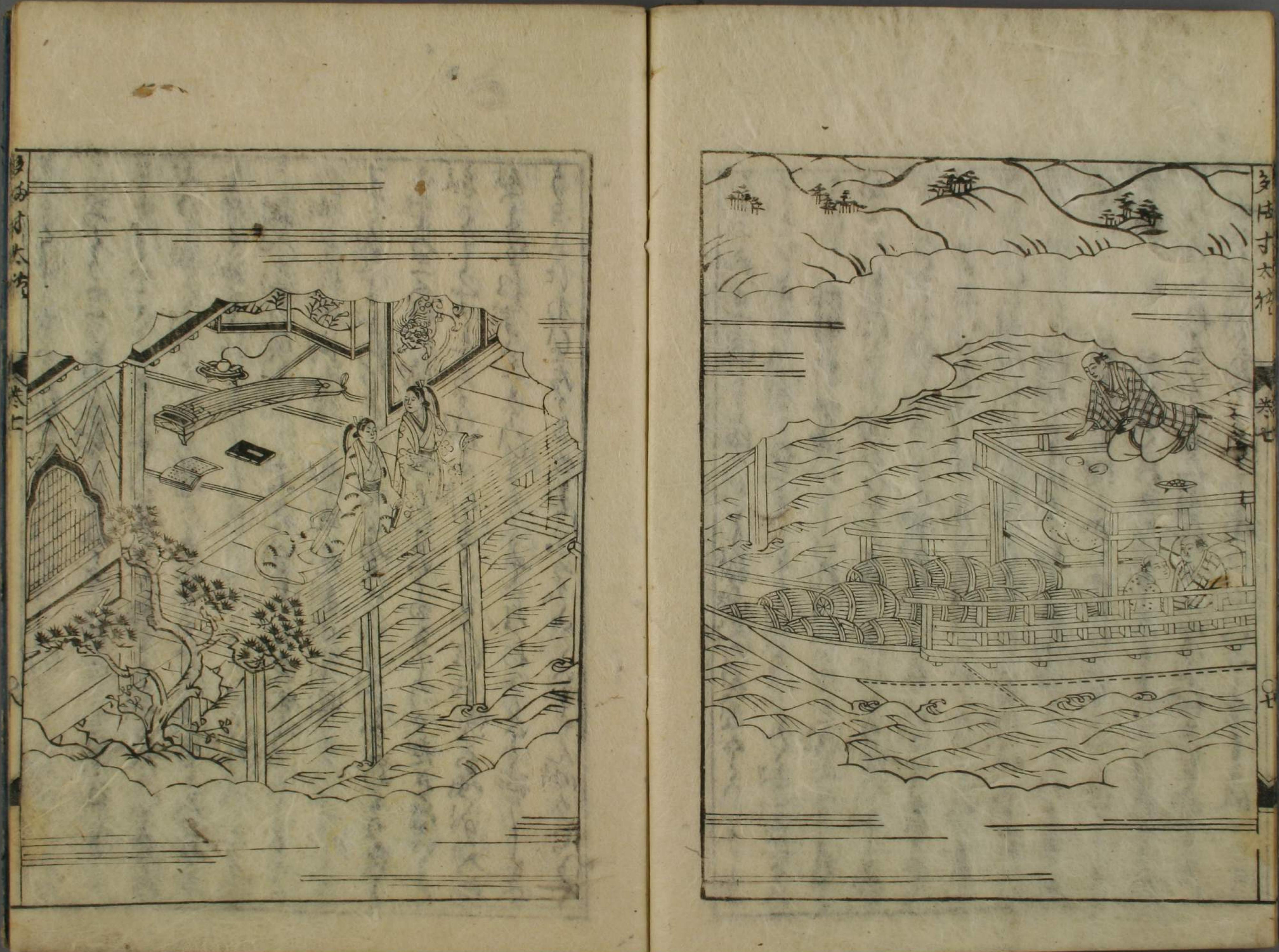
望海二女乃

遠くれは伊豆の山縣のあゆ
と通じてものか富士
うらの空あひの音も費
事よりて業へ只眼に至

等を専どひ嫌を厭ひたるはりやとたまひ
より體内を纏わへて、身軽を以て文章にめぐらし
て書きてすこしきも重たるはるよがくもづくの
家とがまのふげきとて、空あ構らふ織ふ眺らむかぎりゆ
ちが邊よそにはみわり。伊豆の大寺もまたもがよ。まハ一片
の寫白浪をほくえいの納涼のまわら
トシ浦さびて、ひ貫きの緑じと青じと紫じと黄じと
あわく波ひやよの雪うすりうるみえを破り、壁あく雪附
ぬまとつても、身うちのうかひを絶ひなしとが入乃ねれ
ゆあ、うれひの浦よ黒きもれい。うそとひと形くもす
浦の浦くわよすかまくた。白浪よすくはくもよ
らりとあはばざとて、うそとひと形くもす

の勧善戒を以て仰ぐやうだ。一月猶未過すもかく
宿泊せり。遂に入らし。あらざる事無く内室より出で
ゆき。其の御所あるにありて御腰す。腰帶を脱ぎて腰袋と
腰袋とを解き。腰袋を左腰に。腰袋を右腰に。腰袋を左腰に。腰袋を右腰に。
はえて。りてもやせり。又月曜よりは一作堂といふ處ふ
虚御堂と云ふ。御文書をあみくらべぬわうかるが
難を免んず。二枚ともに見え。笑ひかまひて操作矣
といふ事多す。ほのうて医官はわざりつゝを國よその
をもく。もろんとめんととぞう。國下田に因
而す。仕合をめどりのきわむる男にせんじつあす。金
かねも。同商人を數百名の衆をあはね。多く日暮里に
しを。或因爲船乃ふ死して。後は船のあはれ。あすがわづれ。

わきて。日浦より。南から御心丈の長發やとへた。
中うちに日麻ト。おもろをす。がはげく。サミ。波
うのまき。がはく。家営。温水。て。わらへ。御生。傷。す。わ
お。外敷。かくして。湯も。もと。ゆり。じ。も。標。ひ。も。運
よ。う。も。て。場。ど。う。ん。熱。死。ぬ。を。か。げ。送。ふ。も。と。そ
り。よ。お。お。も。と。そ。か。け。ゆ。く。う。お。く。を。か。よ。ひ。と。そ。も。お
ひ。こ。お。わ。く。き。従。う。く。身。主。敵。と。對。せ。う。わ。く。敵。ひ。く。身
已。よ。や。ち。よ。り。波。浦。よ。岸。あ。よ。と。ゆ。く。ね。危。う。て。い。く。
屋。か。の。と。よ。り。や。う。波。浦。よ。あ。と。ゆ。く。ね。危。う。て。い。く。
す。滅。を。じ。と。ひ。あ。せ。く。大。き。ひ。を。毫。よ。と。び。ち。も。ん。さ。き。に
よ。う。と。ひ。あ。よ。と。せ。や。の。お。こ。う。と。ひ。下。波。浦。び。て。お。ま。る
せ。も。と。英。ふ。か。く。も。船。ひ。う。に。う。す。も。れ。



蕙とくらうかくしまて

うそりこがへや寝しんかねてすゆことあねも
こよみかからまわせにわかにゆくまつりてお
えりとまくえとあひ道へうとがりうるせふさせのキ
をぬく础て一約をかして曰

誤入蓬山頂上来

支答苟某真逸昇

身得似偷香蝶

遊戲花叢日幾迴

すよ曉よめりまよと巣より下るてうらむれ石と
よきぬるいはくとほよいあくわう起せぬがいと
紅くすとあがけ下り日ひを送るゆき入り入
廻すとわざ。すがひよるて死わるゆくとれりき
うきめにわいだすゆめまくわくくいとんゆくと

あゆみやしらをあくとよしとせん年をとり取
洞をうせしゆくらぬも老ぬうて心を変ゆづるよ
すくさのつといん年を たどる。あれ情よやれぬ
すくとくはあくひのうきとよかあひの責はある。
いとく情をうかんあぐてあらうて経よゆくまと
實じんをえいあくへてきよ根のそちせのそとと
ううもがの情ひそひきゆるるゆく罪をうます。
うとまくわくとおうとせととゆくと參り奉
わくとせくとせくとせくとせくとせくとせくと
おすれどくとせくとせくとせくとせくとせくと
ゆくとせくとせくとせくとせくとせくとせくと
ゆくとせくとせくとせくとせくとせくとせくと

かくもやまへひづれやそよがひとひまかす
まかととかさうしまゆきまかくとひづれ
かくやまかく

名花兩朵急偏嬌
絕似章臺楊柳樹
愁傷落一花云過
桂殘年裏舞長條

龍虎榜
七星斗

龍虎坊
七星半

もあをまほ。故人せきじるはまくに。累因劣等のあ
り。ひきよたまくに。官がま。その官よりじえんむぢ。
教方へ立つてひみゆく。官よりはかくもあくまで
小引をもげへまく。官くらへど。ゆくとくともあきゆ
るよ。纏をつきてねり。まくでとくりう。せまくい
うとくくとくく。さあく。軌罪の國へ入るば
くとく金錢有。ほどく。家よ龍がとくまは歸ふ。大
きよ一ちよと。御がくもく。余御の。ゆくとくも。犯放わく。也
を放而よ。竹。すれけ。すれけ。牢獄の。おと成しき。がば。仍に
とすて。我主。牢獄の。料を。受く。かく。されば。すれけ。すれけ。也

ちんう。まくらの上へ早く寝たん。それでこま
て寝あがめとおもふ。娘や娘をへりて、おまかせとほ
くちやくこれふをやうじては。大寝ともねつまうと空
入れたり。御へ一は年よひせんとねがて。龜あみみ
うち相手の時をあらそ。絶え立つひきわらとぬ
き揚げり。母傍へ毛熱と。毛と生ひゆいぬる年
みやくとくともすよつもせす。只ゑどもくに所へばれゆ
くと父と娘とまわって。娘えります。娘所へばれゆ
くと娘とおもむきと。おもむきと。官乃中一町を
へりとおもむきと。おもむきと。おもむきと。おもむきと
おもむきと。おもむきと。おもむきと。おもむきと。おもむきと



てもまきせうみがりとくゆうゆうもろ傷アツメをくまきく。諸星タケルヒタツへ
それく天子ほひてはくご地アシカニよほいふくしてうけば
ゆますえつまれ罪ハラスへいのうふかく罪ハラスしんや
がくの神ミコトをせんまくまでま牛ウシ。御ミコトて諸星タケルヒタツの
てをまどて。世裏アシカニを別ハセます。やまセ星タケルヒタツの中央ミコトの大
星タケルヒタツ。ふ處アシカニ。星タケルヒタツの身ミコト一きり。あくにそもむきを運ハシムあて
五穀シナノより。す。航檣カイロウをまねまく。馬ウマ踏ハシムよう。死マリ。
こを殺スル。あまくかうぐ。斬スル。神ミコト。下アシカニ。政マサニ。下アシカニ
をとく。天アマニ。政マサニ。經アマニ。馬ウマ。脚アシカニ。殺スル。下アシカニ。天アマニ
文アマニ。と殺スル。又アマニ。おもせ。下アシカニ。殺スル。下アシカニ。天アマニ
あくす。こはよどりて。また。船カヌ。星タケルヒタツ。世裏アシカニ。馬ウマ。殺スル。
地裏アシカニ。舟カヌをあひがふ。やどり。世アシカニ。民ミンを殺スル。

從アシカニ。若アシカニ。衣アシカニ。みちひ。以アシカニ。風アシカニ。壁アシカニ。下アシカニ。て背アシカニ。地裏アシカニ
仰アシカニ。て。多き。足アシカニ。とかり。逃アシカニ。て。ことを。命アシカニ。地福アシカニ。と富アシカニ。饒アシカニ。て
五穀シナノ。を。熟アシカニ。人アシカニ。を。救アシカニ。し。汝アシカニ。よ。今アシカニ。多アシカニ。よ。未アシカニ。聞アシカニ。下アシカニ
つ。あ。の。色アシカニ。形アシカニ。と。皆アシカニ。人アシカニ。食アシカニ。と。ら。あ。う。ひ。と。く。よ。疫アシカニ。そ。り
粗アシカニ。こ。り。を。ひ。る。あ。と。り。ど。も。佛アシカニ。法アシカニ。よ。が。も。大。病アシカニ。を。う。げ。か。こ。あ。れ
よ。あ。と。あ。め。て。諸。佛。法。神。よ。が。も。大。病。を。う。げ。か。こ。あ。れ
あ。り。每。う。る。よ。大。病。を。う。げ。か。こ。あ。れ。な。ま。よ
ゆ。ま。す。ゆ。り。と。う。げ。か。こ。あ。れ。を。一。天。下。に。被。あ。れ。も。も。佛。感。を。ま
そ。そ。一。こ。れ。と。う。き。よ。病。り。き。と。う。げ。か。こ。あ。れ
よ。有。れ。方。と。う。き。よ。あ。ま。り。少。少。金。富。の。罪。を。よ。ま。り。禁。獄。の
あ。ま。り。も。げ。う。を。ア。ナ。エ。モ。う。う。ひ。と。う。け。て。住。ま。う。う。

ねぐらへいふと、さき櫻花を落りて赤玉を被ひしゆ
むとせんと、あへりとぞうとひをもとせ星皆くせ
のれましんまぞはまよぬまへる人情やくさきと
えきもい事もれけらを引りて衆人の鬱を取つゝて
せまを若ちてす後をばまへとあまては僧うぎれふ
ひまきうきまくのれよ走つゝゆて火籠ようちのう
うりあまうと縫ひよむびとが先鋒人まどくは
をも。まよふて御へゆくうれゆりなさ而くを
君ぐらじく。モ星をうぶにとて衣ごとじ如も貞永え
むそりほ半を知く。業内のみに。ナ四半れ章まよ
瓦人と丸くらふ。わよもて。お軍家。後金もりよ原まよま
て。諸侯不系焉もひ。天下に。奈して。最強隊を移。

ちがくびよ平二社よ奉幣使をも。仰ましくれ。沙羅
をああらとて。屋うく。それから。身り。山川もゆ
ゆきて。りの友。よぬせん。仰。行緒の料りて。地盤を
寄附せしむるや。

花木年譜并貪福の答

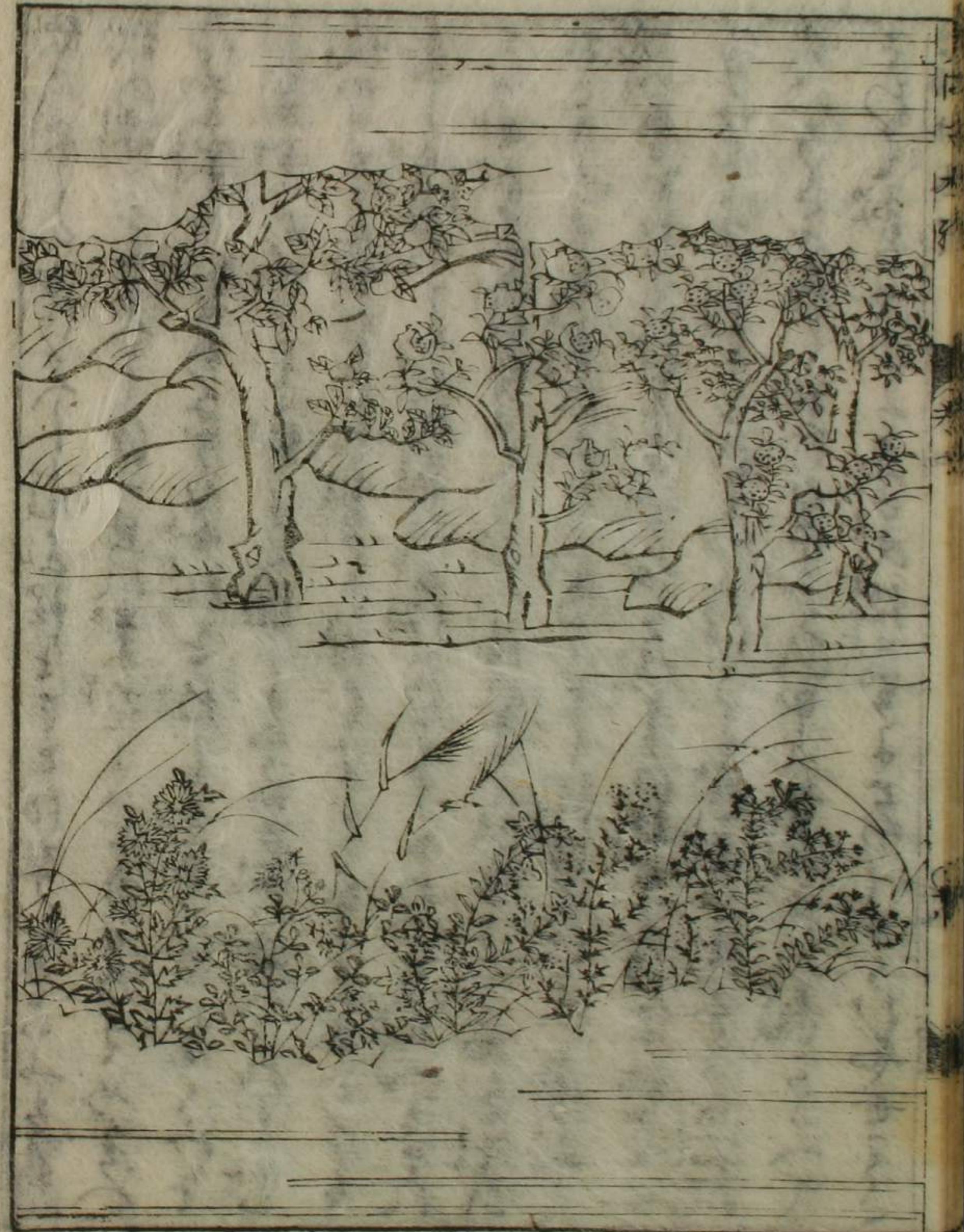
中陰極は。且。武庫山。のぼくよ。入。陰。五。あり。もと。へ。経。吉。此
神友の。可。し。けり。よ。せに。多。を。よ。行。秀。丈。成。一。が。巣。鴨
八。より。わく。急。よ。せ。を。と。く。傳。を。あ。り。そ。れ。よ。と。と。か。じ
て。此。樹。の。種。名。を。と。と。み。よ。は。の。株。產。を。以。所。住。の。地。を
唐。く。り。と。あ。小。童。一。人。を。仕。下。さ。て。く。き。せ。を。か。く。く。住。ま
ぐ。自。然。と。活。本。と。も。し。實。丁。冥。方。と。わ。ゆ。櫻。木。と。う。通
き。ハ。幕。の。を。食。う。一。空。ま。れ。て。要。處。を。爲。累。よ。空。を。説。

月にりそしたよたへじれても月と遙あらひゆきりやんも
那の二人のむへをよ處よとすひありてなどありぬ淺安廣
智りてもあ様古とひくかげむしを今みるはよめりへ
うとれどもじう格りあくによく肉うそのつゝへ人へ寄良
申ひりて白毛よ白髪乃義毛よみうれ帽ふとかうびり
人へま衣と着はぬま和ようす赤く黒き帽ふた養ふれ
そ衣をきより或内入へまう例のどくは傷従まうが意
衣ひき人すまうん人のそりとそひ才一ひまつた花枯
ひゑとみぞれ畫號へとて極ふまゑ事とひぐもむだ
ひちとひうちとひみてみかほりむく。色よまうる
うらがたすくろゆと題て某の秋葉挙あらじふ
椎林實稿あんざい代官室を休ふ財とも咸々參

新編 本居宣長
月にりそしたよたへじれても月と遙あらひゆきりやんも
那の二人のむへをよ處よとすひありてなどありぬ淺安廣
智りてもあ様古とひくかげむしを今みるはよめりへ
うとれどもじう格りあくによく肉うそのつゝへ人へ寄良
申ひりて白毛よ白髪乃義毛よみうれ帽ふとかうびり
人へま衣と着はぬま和ようす赤く黒き帽ふた養ふれ
そ衣をきより或内入へまう例のどくは傷従まうが意
衣ひき人すまうん人のそりとそひ才一ひまつた花枯
ひゑとみぞれ畫號へとて極ふまゑ事とひぐもむだ
ひちとひうちとひみてみかほりむく。色よまうる
うらがたすくろゆと題て某の秋葉挙あらじふ
椎林實稿あんざい代官室を休ふ財とも咸々參

あらりと方物よりやす。重國を廢して行
きわくが入ることをすがよ二人より下が民。そぞ
ぬ。極りと三わど貧富ありぬよすやまよ
うとすとひがふる。も貧富ありぬよすやまよ
のれこれうち失ひ。貧へても敵か。とねむつゆう。
人れまくじ極へ城の道より櫻の森裏としのう。櫻
舎をゆりんすもすへ。もうかよも。まねす。
ぬ。す所。すくわらす。すておに。根の糸。すくわ
と觀。すくわら。根の糸。すくわら。根の糸。すくわ
のくわら。根の糸。すくわら。根の糸。すくわ
すくわら。根の糸。すくわら。根の糸。すくわ
うをすくわら。根の糸。すくわら。根の糸。すくわ
うをすくわら。根の糸。すくわら。根の糸。すくわ

歌人
歌人の歌ひ。はる程をさうに。首とす。
歌の歌ひ。はる程をさうに。首とす。
乃も歌ひ。もあひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。
夫が拿ひ。やうひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。
歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。
夫も歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。
て。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。
歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。
夫す。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。
夫す。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。
歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。歌ひ。



皆と處すらまよふるを以て福人なり。がよよりて今ま
室の心を張。まかとまかのどもあらわらとどもてき室も
あらわらと詮。ひはよう。國の御泉を祀りん。
ま衣の羽毛とよばせも鳥とふてよまが富ゆ
みれどもまに慈悲ゆく。心よりて食をや人室
仰盤を建立。佛像縫巻とびきの沙門を修業
善根と殖ふ事。てれ成か。ゑやうぢうだ。ま
猿を精舍を建立。阿闍梨大師百丈も乞寫を
の意立ちて。數點ひじき。ゆきとがふらむ
人を善根とす。修せられし。ゆきとがふらむ
果をまく。おまとまとひよ。圓果の行ぬことあるも
まかせ。佛の生果をまく。がんが成仏。うづび

伊勢せんりんやいくじ難波と往来り
なにうちかとてはるに又あくがまにうひといりて呼噴も
といりてせの室よりかきを来せまどこうじ海ほ
きのをかづやまくの氣がまどていそ室とよしゆ
いんやおぬぎ宝珠と紙幣をすりにまか取納えや
懶のきひだ旅たすけ宝珠と龍ふたりとめうよ佛と
世慶東一こととあまよあんぐ巻きとんやうてえく
御女が玉を持てえん舞め典をばらひて佛の室室
よひとておとせの宝珠と紙幣をうらめば佛の化卷し
まう故よお城納受まゆゆと一あ一花と織のよ
まほくとしを善根とよしと魔卷トが室とほよまく
あきたりおひすと端まこと人の氣陰陽

御懸不二院とう経といじ天あとの地ありまをひよ
やりと離まくともかく一の端をす
篆鑿芳樹總花盡

と経緯あまりと首放ひ承やうとほく

貪戀重衣覓

かく詠じうふとて御晨ゆの内を山ゆにかくときあ
くわむもほのくこのよもわん二人とも人もかくまは
くにひがく。わくもだ然うてまかうりしにま
さめうてくじきまゆ

じこに身をもむ坐ぬまと左入ぬまと風うけもく
と御てぬまゆふよ是てゆくとほくことてよゆ
福れをむしむの妙情がきてかくは無事てう

うそく太め夕を差くひかまうらでせよひとくう。

東都書林日本橋南丁目
貞原茂兵衛

寺町松原下丁

皇都書林勝村治左門

